

発行所 愛媛県今治市大三島町宮浦 日本総鎮守 〒794-1393

#### 大山祇神社社務所

電 話 (0897)82-0032 FAX (0897)82-0019 https://oomishimagu.jp/

大三島海事博物館大三島大社講



社号標と二の鳥居

### 産ネ 須奈大祭(秋祭)

われた。 十月十一 三月 産須奈大祭が盛大に執り行

ある。 納するようになった。大祭当日は島内をあ 生贄を奉ることを禁じたとある。 雉等を献供していたが、 海上安全・民族の繁栄・産物の増産等、 べてを祈念感謝する神人一和の伝統神事で この祭儀は、 獅子の狩姿を舞に託して、獅子舞を奏 記録によると、古代は神前に白猪や 獅子舞やお囃子、だんじりや供奉行 国土安泰・ 一遍上人により、 五穀豊穣感謝 これよ

> 活気を呈している時期である。 列を伴い島内を練り歩く様は、 島内が最も

りが執り行われ、そこで獅子舞が奉仕され 奈大祭にも参加奉仕する。 大祭一週間前に島内各地域の神社で秋祭 大祭前日から、 各地域で奉仕した獅子舞は、この産須 吹、宿元にて獅子宿門出祭 宮浦地区の秋の祭礼が行

にて鎮疫宮出 われ、十一日早暁、 上条・下条・新地の各地区の家々を舞っ その後、 .祭を斎行。 午前六時三十分に御本社 獅子連中は二日

十月十二日

御祭が斎行され、無事に大祭を執り納めた。 旅所である台三島神社へ渡御、祭場祭を斎 神輿を始め、 この前後に、 和七年の産須奈大祭は幕を下ろした。 頃に神社境内にて最後の舞を奉納した。そ で祝詞が聞こえない程の賑わいを見せた。 庭に参集し、 十月十二日、 獅子連中はこの後も舞い続け、 神事を終えると、 神事を斎行。その後、 鎮疫宮入祭を斎行。これを以て、 多数の供奉奉仕者を伴い、 舞を奉納した。 島内各地域の獅子が神門内内 御本社にて、出御祭を斎行。 宮浦港脇の御休処へ 笛や太鼓の音 御本社にて還 午後十時



本慣し(宮出し前日)



上条下条だんじり



新地だんじり



宮浦獅子

Ξ

大



盛獅子



明日獅子



おしゃしゃのしゃんしゃん



宮入り前

現社地対岸の御休処にて祭典を執り行った。

平成二十八年六月に発生した阿奈波神社拝殿損壊を受け、本年も



阿奈波神社宵祭

# 摂社 阿奈波神社例祭

九月二十二日 (旧曆八月 日 に摂社阿奈波神社例祭を斎行。

前

日二十一日夜には宵祭が執り行われた。

宵祭には宮浦新地地区の氏子崇敬者らが訪れ、

大いに賑わった。

富山県 富山県

藤重 原田

南帆様

愛媛県

武内

悠大様

愛媛県

千鶴様

陸 様

一月十七

日

十月十五

日

森井

晴也様

令和七年 三月八日

愛媛県 愛媛県

真子様

広島県

松岡

風人様

広島県

令和六年

十月五日

十月十九日

東京都

晶子様 夏樹様

八月十九日

神奈川県

河

畄

賢

神奈川県

波多野智美様

東京都

式部

十月二十

日

愛媛県

芋 未

紗貴様

愛媛県

悠様

# 挙 式

ここにご芳名をご紹介いた れた皆様のご多幸とご両家 します。 弥栄をお祈り申し上げ、 御神前で結婚式を挙げら

> 兵庫県 兵庫県 美馬 淳兵様

十月二十六日

原田 詩歩様

十一月十七

 $\overline{\mathsf{H}}$ 

福岡県

日髙

翔様

福岡県

志穂様

九月二十八日 愛媛県 愛媛県 黒田 飛鳥様 有一様

をご希望の方は、当社まで けております。お申し込み お問い合わせください。 神前結婚式を受け付

挙式、

当社では、ご神前で行う

お問い合わせ 拳式初穂料 大山祇神社社務所 十万円

||〇八九七 || 八二 || 〇〇三二 (午前九時~午後四時

山口写真館



火縄神事

#### 噩 一穀豊穣 祈 願祭

けられ、この火縄を持ち帰り各自田畑で点 地から多くの生産者が五穀豊穣の祈願を受 のを縄状にしたもの。夏の土用には県内各 を柔らかく加工した【槙肌】と呼ばれるも 縄に戴き斎田へ下向。 火した火縄を振り回し、その火縄の煙を以 穀豊穣祈願祭を斎行。 て虫除け祈願が行われる。 祈禱符を掲げ、 この神事に用いられる火縄とは、 夏の土用の入りにあたる七月十九 火縄神事を行った。 斎田四隅に五穀成 御本社にて神火を火 檜の皮 日 五.

いかにと文のたよりをそまつ

天正八年拾月廿六日 三嶋宮 法条 第四

(Z25)

かすみを色の花のをちかた

をのかくれとやからすとふらん

賦何木連歌

そなたそとむかへるにもの山とをみ くるゝはすこしおそき日のかけ 春きぬとおもへは去年の雪ならて

契りつることにやくゐのおほからん のちをのこせるこひはうらめし

花にこそこの山かけもとはれつれ

間任間任間任同間任間

君か代のおさまる時をあふけた 神をうつせしこのやほだ山 いにしへの松一本やのこるらん けふりになびくさとのをちこち みそれせし雲のなかめのいろく~に

間信任問任晴同間同時任間

ありしなさけもいまかひはなし となりさへうときちぎりはおほつかな たえく、になる笛竹のこゑ ことはさの道にいりてもおろかにて うけかだき身の程もわすれつ

こだかく見ゆるきしの松かけ みやこあたりそおもひやらるゝ みねのつゝきの道はすさまし ゆふ磬の山は月よりあらわれて 行末もなみをしるへとこく舟に 雲霧のなひくかたもやはしならん さ苗にはるゝ驚のむら雨 一こゑは心の杉かほとゝきす 加雪

往来の野らの風のはけしき 冬されは霊や折く、かわるらん 政重 中歳

わかれ路のあとなつかしみよは明て

俤もたゝわか人はこひしきに 灣霧のはれまにとをきあわちしま あきなゆふなの月をこそ見れ

すまのうらはのあきの半大

つはさをよわみのこるかりかね 帰らんをおもふ心のさすらへに

さしのはる光り長閑けき朝ほらけっかすみににほふ松の一むら 春といへはしらぬも花にたつねきて

- たかさこの尾上はよ所に暮はてゝったりあひの鐘のとをき松はら

むらかしはたてるもあたにちりやせん はらひかねたる雪吹こそすれ

心こそうき隠かの住るなれ みやこのうちに送るとし月

同任間晴任間任間晴任間任同

18.41 ほとけもしらぬ人もこそあれ

何事もうつり行よになりはてい あばれかずかにのこる古さど

しのひ侘ぬるすかたはかなや

手にするむまきのあら駒田る野に

おもひのいろや野にうつるらん 床夏の花にをきそふ露もをし いきりの小舟うかふいりろみ 吹もあらしのあきちかき音 なみに見てきえぬほたるの数おほみ

我もしかのねにこそはなく暮ならめ 浦なみのしつ枝にかゝるしかの松 ひとりのみこそかへる古さど 心なくかたらひあかすをはしまに なかむるかたの月のさひしさ 間睛同任間任時間時間任雪晴間任晴間任辰晴任問信

涼しさはあきの衣にかざなりて 雲はゆふへのほしあひの空 たれかきて犬のこゑをしどかむらん

さかつきの光りさしそふゑひの内 かたるになかきよるのともなひ

涼しさを愛やかしこにもとめきて 水には月のかけうすき空 紅葉はやふもどのなみをそめぬらん 霧のまにくくかよふ山かせ 千またより立わかれぬる触見えて あさなく、に出る野のすゑ さまく、に鳥のなくねを誰きかん

うちちるや葛のかればの隙をあらみ íj2 聞へのきどのいくしくれしつ

みたるゝは竹のは山の静かにて すたれをまけばなひくうす霧 朝露の庭にうつろふ空の月 法にいるべきこゝろどもかな

間睛任信間任間任晴間任間任

野分せし夜の花の草( 物をのみちゝにくだけでおもふ世に なみたの水のかへらぬはなそ

からる家品をたれかしらまし ましはのみはこふもとをきをのゝきと おくは雪気の雲をいさよふ 流れてやかすめる水のみなと川 木ふかくなりてくるゝ春かせ

任 <u>[</u>13]

> 枕をもからはや花のしたふしに ちらまくをしきわか草の粥 玉しきの砌りしつかに雨はれて いけの汀にねふるしらさき

かすむ野山をわけまよふ末

またし今はのきぬく、ほうし くたかけやふけぬる夜半をつけぬらん

半天とをきなるかみの音

一かたに春のあらしのさたまらて

法楽連歌解

説





は大祝家を始めとする社家、三島水軍の武将

時宗僧、女性など時代の変遷とともに各

年にいたる二二七年の間に奉納されたもので

大三島宮法楽連歌は文安二年から寛文十一

合計二八一巻の懐紙が保存されている。作者

いろ深き霧のむら萩うちかほり こくろに秋の風過るころ 度とちかひてきてし月のくれ

任晴任問任間任間同任間晴信

光晴 安任 盤 士 壯 ъ =. 中歳 ご歳 政重 辰歲 丑歳

任: 晴

いつれるやけき月と目のいろ いなつまのかけにも袖は暮やらす

国

重要文化財に指定された。 層にわたっている。昭和四十七年五月、

# 大三島大社講のご案内

皆様のご入講をお待ちしております。 として、大三島大社講は設立されました。 に当時の国幣大社大山祇神社の崇敬者団体 え、便宜を図るため、昭和二年(一九二七) ませんでした。そして崇敬者に満足を与 に至るまで崇敬が篤く、「大三島詣で」と れております。古来、 神は大山積大神、またの名を和多志大神と きた四国第一の古大社でございます。御 して知られ、遠近より参拝するものが絶え 命開運、 大山祇神社は古くからこの大三島に鎮 日本総鎮守、 五穀成就、 山岳を守護される神様であるだけで 造酒の守護神としても、広く知ら 海上安全、漁業満足、 伊豫國一宮と尊崇され 皇室を始め一般国民 長 7

#### 【この講社の趣旨

明造化の真理を顕現し、 道義を高揚し神恩に奉謝し普く神人和力文 図り次の事業を行う。 大三島大社講は大山祇神社の崇敬者を結 敬神崇祖の信念に基づき、 大山祇神社の維 至誠以て

## 【この講社の主な事業】

- 大山祇神社の神徳昂揚
- 存修理 大山祇神社国宝重要文化財その他宝物保

大山祇神社祭礼神事の保存

™ ○八九七-大山祇神社内

〇八九七-八二-〇〇三二

(午前九時~午後四時

愛媛県今治市大三島町宮浦三三二七

島

大

社

講

〒七九四-一三九三

- 図書、 雑誌の編集発行
- 講演会の開催
- 講社員募集並びに伝道
- その他本講社目的達成のために必要な事

## 【入講後の主な待遇

- 家内安全家業繁栄祈願祭斎行の上、 を奉送する。 大麻
- 講社大祭並びに毎月一日祭に講社員名簿 斎行する。 を奉奠して家内安全家業繁栄の祈願祭を
- 大山祇神社宝物館拝観優待券贈
- 大三島海事博物館拝観優待券贈呈。
- 社報「大三島宮 を贈呈。
- 大三島暦を贈呈。
- 大山祇神社例大祭・講社大祭他の御案内

## 【ご入講の手続き】

- 名誉講社員 毎年
- 特別講社員 毎年
- 正 講社員 但し、 口毎年

せください。 入講に関しましては、 当社までお問 e V 合



大三島暦



宝物館優待券

もご回答いただけます。 にかかわらず、どなたで せください。入講の有無 大三島大社講について、 こちらよりご意見等お寄



をお渡しします。

、後日ホームページにてお知らせいたし(書置き対応とする期間につきまして

送による御祈禱を受け付けております。詳細

は社務所までお問い合わせください。

方や事情によりご参拝の叶わない方には、郵

お参りなされても結構です。また、ご遠方の

尚、三が日にこだわることなく日をずらし

ジを御覧ください。

ざいますので、ご参拝の際は当社ホームペー

今後の状況により対応を変更する場合がご

# 初詣・新年祈禱のご案内

ますようお願い申し上げます。り対策を施して参りますので、御理解賜り新たな年を迎えるにあたり、左記のとお

適宜ご判断ください。 混雑が予想されるため、マスクの着用は

御祈禱件数が多い場合にはお待ち頂く場当社境内では、並ばずに、御参拝ください。

頂きます。事前に墨書した朱印紙(和紙)お持ちの朱印帳への押印・墨書はご遠慮合がございます。

御参拝下さい。

ます。)

並ばずにご参拝ください



新年神符

| 後厄    | 本厄    | 前厄    |  |  |  |  |
|-------|-------|-------|--|--|--|--|
|       | 女 性   |       |  |  |  |  |
| 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 |  |  |  |  |
| 20歳   | 19歳   | 18歳   |  |  |  |  |
| 平成5年  | 平成6年  | 平成7年  |  |  |  |  |
| 34歳   | 33歳   | 32歳   |  |  |  |  |
| 平成元年  | 平成2年  | 平成3年  |  |  |  |  |
| 38歳   | 37歳   | 36歳   |  |  |  |  |

| 後厄    | 本厄    | 前厄    |  |  |  |  |  |
|-------|-------|-------|--|--|--|--|--|
|       | 男 性   |       |  |  |  |  |  |
| 平成13年 | 平成14年 | 平成15年 |  |  |  |  |  |
| 26歳   | 25歳   | 24歳   |  |  |  |  |  |
| 昭和59年 | 昭和60年 | 昭和61年 |  |  |  |  |  |
| 43歳   | 42歳   | 41歳   |  |  |  |  |  |
| 昭和40年 | 昭和41年 | 昭和42年 |  |  |  |  |  |
| 62歳   | 61歳   | 60歳   |  |  |  |  |  |

| 白寿   | 卒寿    | 米 寿   | 傘寿    | 喜寿    | 古稀    | 還曆    |  |  |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|--|
| 昭和3年 | 昭和12年 | 昭和14年 | 昭和22年 | 昭和25年 | 昭和32年 | 昭和41年 |  |  |
| 99歳  | 90歳   | 88歳   | 80歳   | 77歳   | 70歳   | 61歳   |  |  |

# 令和八年・年祝い

※数え年にて表記



師走の大祓を厳修致します。 来る十二月三十一日夕刻より古式による

をします。 て息を吹きかけ、罪穢を人形に託しお祓いと生年月日を書き、その人形で身体を撫で の大切な神事です。人形(ひとがた:紙をい、心身ともに爽やかに新年を迎えるため の穢れ、目に見えない諸々の罪・過ちを祓 知らずのうちに触れてしまった自らの心身 人の形に切り抜いたもの)にご自身の名前 これは日常生活において、 (ひとがた:紙を 私共が知らず

絡ください。 不明な点等ございましたら社務所までご連 ご所望の方は人形をお渡し致します。ご

(申込先)

〒七九四 - 一三九三

№ ○八九七-八二大山祇神社社務所

〇八九七-八二-〇〇三二

愛媛県今治市大三島町宮浦三三二七

#### 辞

令

令和七年十月 日

大山祇神社権禰宜に任ずる 典 江 本 武 宣

主

社 本 庁

大 畑 Щ 雅 央

内子を命ずる

内子見習 内子見習

Ш Щ

尚

穂

波

祇 神 社



人形(ひとがた)



↑アンケート はここから



|     |      | 四月 |      |   |    | 三月 |     |      |    |   |   | 二月 |     |   |   | 至  | 自 | 一月 |   |     |     | 十二月   | 大        |
|-----|------|----|------|---|----|----|-----|------|----|---|---|----|-----|---|---|----|---|----|---|-----|-----|-------|----------|
| 二十九 | 十二十二 | _  | 十二十二 | " | 三十 | _  | 二十三 | 十二十二 | 十七 | " | + | _  | 二十二 | " | 七 | 15 | _ | _  | " | 三十一 | 一十二 | _     | 三島       |
| H   | 日    | 日  | 日    |   | 日  | 日  | 日   | 日    | 日  |   | 日 | 日  | H   |   | H | 日  | H | 日  |   | 日   | 日   | 日     | 令 官      |
| 昭   | 月    | -  | 月    | 春 | 皇  | _  | 天   | 月    | 祈  | 紀 | 橿 | _  | 月   | 福 | 生 | 年  |   | 歳  | 除 | 大   | 月   | 全国    | 和名       |
|     |      |    |      | 季 | 霊  |    |     |      |    |   | 原 |    |     |   |   |    |   |    |   |     |     | 国鉱    | 年事       |
|     |      |    |      | 祖 | 殿  |    |     |      |    |   | 神 |    |     | 木 |   |    |   |    |   |     |     | 山工場   | 令和七年十二月~ |
| 和   | 次    | 日  | 次    | 帚 | `# | 日  | 長   | 次    | 年  | 元 | 宮 | 日  | 次   |   | 土 | 始  | ì | 且  | 夜 | 祓   | 次   | 安安    | )        |
|     |      |    |      | 霊 | 遙  |    |     |      |    |   | 遙 |    |     | 神 |   |    |   |    |   |     |     | 工場安全祈 | 和        |
|     |      |    |      | 社 | 拝  |    |     |      |    |   | 拝 |    |     |   |   |    |   |    |   |     |     | 願大    | 令和八年四月   |
| 祭   | 祭    | 祭  | 祭    | 祭 | 式  | 祭  | 祭   | 祭    | 祭  | 祭 | 式 | 祭  | 祭   | 事 | 祭 | 祭  |   | 祭  | 祭 | 式   | 祭   | 祭     | 月        |